

役に立つ葬儀の話 Vol.71

【仏教のお焼香】

お葬式に参列すると、焼香って何回すればよいの？と、疑問に思う事もあると思います。自分の家のお寺、宗派の回数で良いと聞くのですが、自分の家の宗派も知らないし、お焼香回数も分からないという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そういった場合は、回数にこだわる必要はありません。心を込めて1回、香炉に香をくべて下さい。

【お焼香までの流れ】

- ①左手に数珠を持ち、遺族に一礼して祭壇前に進みます。
- ②焼香台の前で遺影に目を向け、合掌礼拝をします。
- ③右手の親指と人差し指、中指の3本で軽く香をつまみ、香炉にくべます。
(宗派によって作法が異なり、香を額に押しいただく場合) つまんだ香を上に向けながら左手の掌の上に受け、額の辺りに捧げます。
- ④再び合掌礼拝後、下がる際に遺族に一礼したあと、自分の席に戻ります。



【お焼香の順序】

お焼香の順番は、一般的に、故人と血の繋がりの濃い順に行います。

- ①喪主 ②故人の子 ③故人の父母 ④故人の配偶者の父母 ⑤故人の孫 ⑥故人の兄弟姉妹 ⑦故人の配偶者の兄弟姉妹 ⑧故人のおじ・おば ⑨故人の配偶者のおじ・おば ⑩故人の甥姪

【お焼香とは】

香り・煙は隅々まで広がり匂いが身に付く事から、すべての人に平等に行きわたり、仏教の教えが身に付く、仏の慈悲を讃えるものとも言われています。また、お焼香・お線香の煙は、仏の食べ物(香食)とも言われている事から、故人の為に行うものと捉えがちですが、お焼香をする人の「心」と「身体」の穢れを取り除く意味合いもあります。お焼香も、意味を理解して香を焚けば、故人を弔うだけでなく、自身も清められるという事です。



小番英之

あしがき

秋と言えば美味しい旬のものが盛りだくさんで「食欲の秋」を一番に思い浮かべてしまうのですが、涼しくて過ごしやすい秋の夜長は、趣味を楽しむにはぴったりの時間です。そんな秋の夜長の過ごし方のおすすめは読書です。10月27日から11月9日の2週間、秋の読書週間が始まります。本屋さんでも、様々なジャンルの本が陳列されているので目移りするのですが…。カラフルで印象的な紹介文が書かれたポップにつられて普段は読まないジャンルに手を伸ばすなんてことも、夜時間が充実しているこの時期ならではの出来事ですね。

灯火親しむこの季節、ゆっくりと本を読むのも贅沢な時間の過ごし方なのではないでしょうか。



出口秀美

葬儀の現場から ~折りを入れた折り鶴~

旅立つ故人のために棺の中へ納める副葬品は、好物や思い出の品だけではありません。「あの世への道中で迷わないように」「寂しくないように」と、送る人が祈りを込めた「折り鶴」もその中のひとつです。皆さんも一度は折った経験があるのではないのでしょうか？家庭や学校で教えてもらったことがあるかと思います。折り方を楽しむ遊びから、身近な人の病気回復を願うため、祈願成就で寺社に納めるため、近年では「非難」の象徴として、日本だけでなく世界中の人々が平和への願いを「折り鶴」に託しています。その原点を尋ねれば、日本で生まれた「和紙」の開発、発展が重要でした。この薄くて丈夫な紙は、平安時代では主に写経や記録用だったものが、その後、襖・屏風・障子や行灯、扇子など住まいや暮らしに合わせて多様化し、のちに貴族の間で供物や贈り物を、紙の折り目を活かして美しく包装することが流行ります。これが「折り紙」の原点となりました。室町時代には公家や武家ごとに儀礼折の礼法が生まれ、その名残は今でも婚礼や進物の熨斗などに見受けられます。折り鶴はこの時代には既に今のようになっているそうです。

やがて紙は量産され、庶民にまで流通し、それによって「折り紙」もより親しまれるようになりました。江戸時代には世界最古の折り紙の本「秘傳千羽鶴折形」が出版されています。かたや鶴といえば、その優美な姿態は万葉集や他の歌集でも数多く詠まれるほど人々を魅了してきました。霊鳥としても崇められ長寿や夫婦円満を表わしますが、仲睦まじい鶴を見ながら傍らにいない相手に思いを馳せ、鋭く響き渡る鳴き声を聞き、恋しくて泣く、悲しくて泣くと歌われることも多いようです。古来より日本では、死者の霊魂を乗せた舟・船を鳥に案内させ、来世に導くという昇天思想があります。それに仏教や習俗などを踏まえて語るならば、鶴を舟として三途の川を渡る時に、鶴はその姿をもって先導し、仏に成るための修行の山道では、案内人となって四十九日もの間共に歩いて行くのでしょうか。故人との二人だけの思い出やメッセージをそっと内側に書き記し、その思いを折り鶴に託し棺の中にお納めする、ドリーマーではそんな時間を大切にしたいと各会館に折り紙をご用意しております。故人を偲びながら折る鶴は、その面影に彩りを添え、見送る人の心を慰めるのではないのでしょうか。



白石弥生

ちょっとひといき

食欲の秋。小腹を満たすのにぴったりの即席麺を、個人的な思い出順で発表しております「思い出深い即席麺トップ3」前回は第3位「山頂で食べるカップヌードル」をご紹介いたしました。今回続く第2位は…【**休日のウチの味、わかめラーメン**】



突然ですが、皆様はブルースト効果をご存知でしょうか？これはフランスの作家、マルセル・ブルーストに因(ちな)んで名付けられた現象のことで、ある特定の匂い・味を感じるとそれに結び付いた記憶や感情が呼び起こされる現象です。ブルーストの著書「失われた時を求めて」の中で、主人公は紅茶の中に落ちたマドレーヌの欠片をすくって口に運びます。その瞬間、マドレーヌをお茶に浸して食べていた幼き日の思い出が次々に蘇るのです。この一節から名付けられた現象ですが、医学的に見ても記憶を司る脳の働きと嗅覚は密接に関係しているそうです。実は私にとって、このブルースト効果に結び付く食べ物が「わかめラーメン」なのです。

幼い頃、我が家の休日は午前中のパートに出た母の帰りを待ち、皆で簡単な昼食を摂るのがルーティンでした。そこでよく食べていたのが子供の自分にもちょうど良いミニカップサイズの「わかめラーメン」だったのです。母を待つ恋しさとお帰りを迎える嬉しい気持ち。食卓に並んだお惣菜の匂い、家族揃っての賑やかな昼食。今でもわかめラーメンを食べると鮮明に思い出されます。もちろん、わかめラーメンは特別な思い出が無くとも美味しく食べられるラーメンですのでご安心を。魚介の旨味が溶け込んだ醤油スープ、コシのある麺、胡麻の香りにコーンの甘味、後を引くスパイスとやさしく広がるわかめの食感…。何ともお腹が空いてきました。

ちなみに、「失われた時を求めて」は世界最長の小説としてギネス記録に登録されています。秋の夜長にうってつけの小説ですが、それはそれは長い秋になるでしょう。さて、今回は満を持しての第1位、お楽しみに！



伊藤沙由貴

お問い合わせ
資料請求

お急ぎの方は
電話にて
対応いたします。

フリーダイヤル
0120-44-5880
365日24時間対応しております。
【通話無料】携帯電話でもつながります。
ドリーマーご自宅出張
無料事前相談実施中 !!

◆ドリーマーではお葬儀前に必ず全てのお見積もりをお客様に提示いたします。
◆ご予算に合わない場合は、予算に合わせて内容の変更が可能です。
◆後で想定外の費用が発生する事はございません。

ドリーマーの
お葬儀費用